

【男子チームスプリント決勝】予選から修正した走りで頂点に立った愛媛の(左から)本田、松岡、山崎—八戸自転車競技場



自転車・チームスプリント 愛媛男子頂点女子準V

青森
国スポ
2026

国民スポーツ大会「青の焔めきあおもり国スポ」は8日、青森県の八戸自転車競技場で会期前の競技が行われ、愛媛勢は自転車のチームスプリントで男子が優勝を飾り、女子は準優勝した。

個人種目の予選もあり、スクラッチ男子Aの木綿峻介(日大、松

山学院高)、男子Bの松田泰太郎(松山学院高)、ポイントレース男子Bの井上悠喜(松山学院高)がそれぞれ決勝に進んだ。

自転車

山学院高)、男子Bの松田泰太郎(松山学院高)、ポイントレース男子Bの井上悠喜(松山学院高)がそれぞれ決勝に進んだ。

結果 手応えと悔しさ

「来年2人でリベンジ」

玉井・井上



【女子チームスプリント決勝】積極的な走り、2位に入った愛媛の井上(左)と玉井(右)は八戸自転車競技場

「早く仕掛けてよかった」と反省が口をついた。

競技歴1年半ほどの井上も「2位のうれしさよりも悔しさの方が大きい」とぼつり。腰のけがで練習を積み重ねた時期があったが「1回の練習を大切にしようになった」と伸び盛りで、武智光監督は「格上を相手に善戦してくれた」と評価した。

決勝レース直前、目をつぶって手を合わせの動作がそっくり、相性の良さを示した2人は声をそろえて「来年の大会、2人でリベンジする」(織田龍郎)

高い修正力 経験発揮

最終3走の勝負となった男子チームスプリント決勝。ペダルを踏み抜き競り勝った松岡勇斗(日大、松山学院高)は左手を空に掲げ、王者の風格を漂わせた。

3人1組で1周、こに1人ずつ離脱していき、着順で競ったチームスプリント決勝。序盤で相手にリードを許す展開にも動じず、経験を生かした高い修正力が光った。

本田・山崎・松岡

個人種目へ大きな弾み

予選でミスがあったコース取りをきっちり修正。加速を遅らせないよう走れたとし「うまく後ろの強い2人につなげる」ことができた。先頭交代でうまくスピードに乗れたと2走山崎帝輝(松山学院高)。前日3レースを走った影響からか、終盤に速度は落ちたものの「ペダルを踏むことだけを考えたら」と3走につなぐ役割を全うした。

(織田龍郎)

最後は大舞台の経験豊富な松岡が貴様の走りを見せた。メンバーでの練習が十分でない中、予選レースで前との距離感を把握。ペーシングを上げて僅差の勝負をものにした。「やるべきことをやるだけだった。前の2人が頑張ってくれた」と仲間をたたえた。

表彰台の最上段で喜びをあふれさせたメンバー。「優勝を追い風に個人でも勝ちたい」と山崎。団体種目を最高の結果で終え、個人種目に臨む愛媛の選手たちにも大きな弾みを付けた。